# 興味をもって探究する姿
# 「色水あそびから色づくり」

## 子どもの姿を踏まえ、どうしてこのテーマになったのか

・3歳児クラスが色水遊びをしている姿を見て、興味を持った児が参加し始めた。2歳児クラスの時も色水を楽しんでいた子(クラス)で当時は色を混ぜることを楽しんでいる様子が多く見られたが、4歳児になり「○色と△色を混ぜたらこの色になるよ」など混色や作り方にこだわりを持ち、その中でも遊び方の視点が一人ひとり違うと感じたので、どこに面白さを感じているのか、遊びを続けていく。

・色の違いに気付く姿もあれば、偶然できた色を楽しみ、完成した色を友だちや保育士に伝える。

・"緑と黄緑"など似ている色でも違いがあることに気付いている児が数名いた。最初は三原色+白を設定していたが、「青と赤」など2色ずつ設定してみることで入れる量によって色にも違いが出ることに気付き、遊び方やイメージが膨らむのでは?と予想したため。

## 育てたい子どもの姿（年齢別保育目標に基づいたねらい）

・色水を入れる量を変えてみるなど試行錯誤しながら混色することを楽しむ.

・出来た色や過程・気付きなどを友だちや保育士と共有・共感する.

・シャンプーボトルやスポイトなどの道具を使って　楽しんだり工夫したりする.

## 保育士がすべきこと（ねらいを叶えるための環境・配慮点）

・子どもの様子によって活動の人数や活動場所を設定し、遊びに集中できるようにする. → その子なりに遊べるようにする。

・完成した色を残す(飾る)ことで一つひとつの色の違いに気付けるよう、巾袋、ペットボトルを用意する.
参加していない児も色水の様子に気付けるよう保育室に飾ってみる.

・一緒に色水遊びをして楽しむことで、子どもたちの気付きに共感したり試している様子に気付けるようにする.

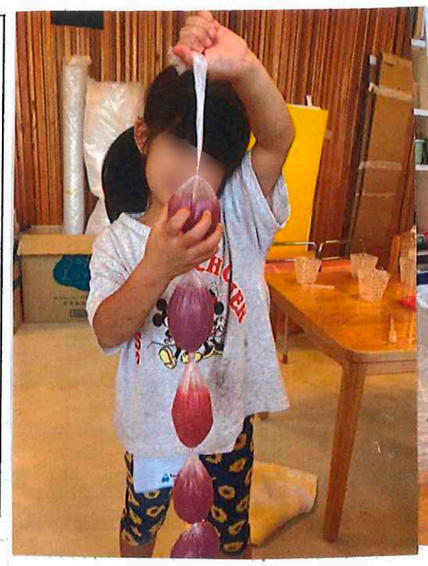
## 活動の写真

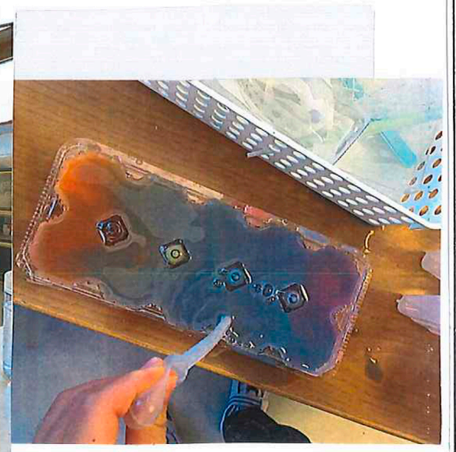
# 活動①「色水あそび」

## ねらい

・赤と青の2色からどのような違いの色ができるのか試しながら色水あそびを楽しむ。

・スポイトなどの道具を使いながら小さな色の変化を楽しむ。





## 振り返り

・色水を入れるものをかさ袋にしたことで子どもたちが色の違いに気付いているようだった。

・環境をアトリエにしたことで、周りの遊びに気持ちが散らずにじっくり試しながら遊んでいた。
この時はやりたい児で移動して遊んだが、その他の児は気付かないということも今後でてきてしまう。
どの場所でやったらいいか考える。

・2色だけ出した方がじっくり試して遊ぶ姿が多い。
「赤・黄」「青・黄」など違う組み合わせでしばらく設定してもいいと感じた。

## 活動の様子・子どもの姿の考察

・赤と青を混ぜたら紫になるということを分かっている児が多く、他の色(黄・白)を使いたがる姿もあった。完成した色をかさ袋に入れて2回目に作った色を入れてみると、1回目に作った紫と違う紫ができたことに気付いていた。

・(保育士がさりげなく「次は赤いっぱい入れてみようかな」と言ったことを聞いて…)入れる量の違いによって赤っぽい紫になるのかも…とポンプを押す量を変えて遊び始める。

・「薄い色を作りたいから」と水を入れて透明に近付けようとする児もいた。

○色水で色の変化を作るだけでなく透明ぽい色を作るのに水を足そうとするアイデアはどこから…？水＝透明だから色水に水を入れたら作りたい色が作れると思ったのか？

↳・真似して水を入れ始める児も数名。水を少し入れたら透かしてみて、さらに水を足したり、色水を足したり…と工夫して遊んでいた。

・スポイトで少しずつ色水を入れてわずかな色の変化を楽しむ。

・赤を先に入れるんだよ、青を先に入れるよりきれいな紫になるんだよと教えてくれる。

次の活動へ

# 活動②テーマ「赤と黄色の混色」

## ねらい

- 赤と黄色の混色によりどのような色が完成するのか色水遊びを通して体験する。
- 赤、黄色の色水の他に水を用意することで濃い薄いに気付く。
- 色の比率（赤が多い 黄色が少ない等）に着目してみる。

## 活動の様子・子どもの姿の考察

・（A）赤と黄色を混ぜるとオレンジ色になることを始めるまえから知っていたが、赤を入れた容器に黄色を入れることでできたマーブルを見て「謎の色」と表現する。

・（B）（C）少しの赤とたくさんの水を混ぜることでうすいピンクができることを発見する。友達や保育士に作り方を共有する姿がある。

・（D）タマゴの容器に赤と黄色を別々に入れ、少しずつ混ぜて色をつくる。「4色できた」と友達や保育士に見せる。

・（E）前回の色水遊びでは遊び方がだんだん激しくなっていったが今回は、何色か色を作って食製に入れると満足したのか別の活動に移っていった。

・（F）片付けを手伝う中で、ぞうきんにも赤が移っていることを発見して保育士に共有する。

・（G）製氷機に色を作ると「凍らせたい」と保育士に伝える。冷凍庫に保管中。

• 薄める水の色のこと「透明」という。
「水ちょうだい」じゃなく「透明ちょうだい」

4Pカップで時間をかけ丁寧にやっていた。
大人は「すごい」「きれいだなー」と思っていたが、友達が終ったら一緒に流してしまった。
大人はもったいない、何か残しておけばと後悔。
でもこの子は日常の製作でもとっておきたい気持ちはないみたい。本人はあそびで満足？なのかもしれないけど大人が"大事にしたい"気持ちを伝え、みんなに共有される経験を重ねたら、肯定にもつながると思う。

## 振り返り

・色水遊びに興味を持つ児が想像していたよりも多く、活動の序盤では混み合ってしまったことでじっくり楽しめない姿もあった。誘い方を検討。
・活動場所を自由に行き来できるようにしたことで飽きていても続ける姿はなく、満足したところで別の活動に移ることができていた。
・使用する道具をテーブルの上に出し、自由に取れるようにしたことで道具を探すことよりも色水に集中して取り組む姿があったためよかった。

なぜ混み合った子どもの気持ちは…
少人数とか場所の検討になりがちだけど
③が状況を把握するための間（ワチャワチャ）
新たな活動か、環境はうれしくって必要な時間
焦らなくても大丈夫!!

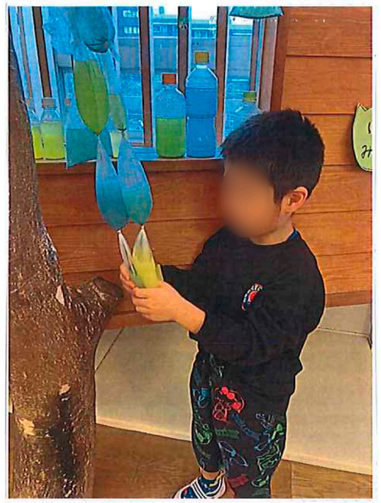
次の活動へ

# 活動③「2色・3色の混色」

## ねらい

・2色、または3色の色水を使って混色や完成する色の違いを楽しむ。

・スポイトやカップ、卵パックなどの道具や素材を使い、色を少しずつ変化させたりどのように変わっていくのか観察する。



## 振り返り

・2色での混色をじっくりやってきたことで、3色に色を増やした時に作りたい色のイメージから入れる量を調節しながら混色を楽しんでいたように感じる。

・入れる回数を共有する姿から小さいジップロックに入れてカラーチャートを作ったが、色水遊び①から、このアイデアを持っていたら1つ目には(例)が用意してみるにしても、2つ目以降は子ども自身でカラーチャートを作ってみようとするなど遊び方が広がっていたかもしれない。

・回数を重ねるにつれて、混色を楽しむ児・スポイトなど道具を使うことを楽しむ児・色は一段落して水遊びを楽しむ児など子どもの興味が分かれてきていることに気付けた。

・完成した色水は保育室に帰ることで、自分の作った色だけでなく、友だちが作った色を見て「何色混ぜたのかな」と考えたり聞いたりすることで色の違いに不思議さ、面白さを感じていたように見えた。

次の活動へ

＊活動は別紙参照

継続していたからこその姿だから カラーチャートは最初からいらないんじゃない？
カラーチャートをマネる子たちはポンポン何回とか ○○はこの位とか微妙な加減を知っていた。小さい袋・傘袋など慎重に扱う道具から得る体験もありここにたどりについているのではないか。

11/7(木) ◎…考察

(G)が何に興味を持っているのか追いきれてしまいという前回までの反省を踏まえて隣で遊びを追ってみた。

→ 青と黄色を少しずつR1ボトルに入れて緑を作ると、「こんな色ができた」と嬉しそうな様子。

→ 別の色を作りたいけど、同じR1ボトルに足しても色は変わりにくいということは分かっているのか、「この色水どうしようかな～」と一人でつぶやく。

目的があったけど道具をみつけられなかった。一緒に探す？

やりたいけどやり出す自信が…一緒に試してみる？

→ 同じテーブルで遊んでいた児はカサ袋を使ったり、別のR1ボトルや卵パックを用意したりしていたけどその姿は(G)が考えようとしようとしていないよう。「どうしようかな～」の言葉に対して、「どうしたらいいだろうね」など考えられるような声かけをしたり、周りの児のアイデア(カサ袋使うのいいね)を言葉にしたりしながら様子を見る。

→ ㊐の言葉に反応して他児を見たりするけど、「どうしよう」を繰り返す。㊐が直接的に「○○使うといいよ」など言うのを待っている様子。自分で決定するのは自信がないのかな…？

→ R1ボトル、卵パックが置いてある所に一緒に行き、「R1ボトルは1つの色をたくさん入れられる、卵パックは量は少しずつだけどいろんな色入れられそうだね」と特徴を伝えながら物を選べるようにした。

→ 卵パックを選びR1ボトルで作った色水を少しずつ入れていく。1つの穴に少しずつ入れることに苦戦しているようだったが、溢れて隣の穴に混ざり偶然できた色の変化を楽しむ姿もあった。

☆

(M)

色によって温度が違うことに気付く。「なんで？」と不思議そうな様子。

→ 光が入る所でやっていたから色水が温まった？触っていたから？

→ 色ができる度に温度を確めていた。

担任の投げかけどうだろう

・Aが選択できるようにしてる
・試行錯誤を大切にしてる

☆から友達との共有になるのかな

友達のマネはしようとしない
㊐とやりたいのかな

(N)

混色く道具の方が興味を示している様子。

→ スポイトに水を入れられると嬉しそう。でも少しずつしか入らない

→ 長いスポイトに色水を入れ、短いスポイトの先をぴったり合わせて色水が入っていくか試す。

→ 短いスポイトより長いスポイトの方がたくさん入ることに気付いたのか？ポンプ部分を「1・2・3」と回数を変えながら押して量をたくさん入れてみようとする。

→ アイスを作るケースにシャンプーボトルから直接色水を入れる。

→ 溢れそうになると透明カップを横に置き、溢れてもこぼれないように工夫する。

→ 透明な色水(水と青少し)の中にスプーンを入れると、水中と外でスプーンの太さが変わることに気付いた様子。

→ 意外な発見に㊐もビックリ。「すごい!!」と声をかけると嬉しそうな様子で「他にも何かあるかな」と不思議を探し始めていた。

→ 前回までの様子を踏まえてやっている途中に声をかけず本児から発信→声かけをしたことでじっくり試して遊べていた印象。途中で大人の声があると遊び方に迷いが出る？タイミング見極め大事。

ここが難しいけど㊐のことも理解している

(H)

透明カップで作った色水

→ 「青を先に入れて…」「黄色を少しにしたんだ」入れる順番・量を本児なりに変えながら混色を楽しむ。

→ 入れる量によって出来る色が違うということを知っているから、
↳他児が作った色と自分が作った色が同じになると「すごい!!」と驚いていた。「たまたま同じ量入れてたのかな？」と不思議そうにする姿も。

→ カサ袋に入れようとするけどこぼれてしまうことが嫌な様子。㊐に「こぼれちゃうんだけど」と見かけを求めにくる。

何度もあそんでいるのに今までこぼれること気にしてなかった
|
こぼれない方法必要になった
|
自分が気づいたタイミング

→ 普段から色んなアイデアを出しながら遊んでいるから解決策を自分で見つけられるのでは？と思い、「どうしたらこぼれないんだろうね」「何か良い方法あるかな」とだけ言ってみた。

先に言ってたら＝こぼしちゃいけない になってしまったかも!!

→ カサ袋を見た後、(袋同士が)くっついているから入れにくいのかな？」と本児なりに考察。くっついている所を離し、空気を入れた状態にしてから色水を移したことでこぼれにくいことに気付いた様子。
↳「中に空気入ればいいのか」その後も同じように遊ぶ。

(I)も空気を入れてから色水入れていた。

フッって息を吹きこんでた

(O)

ポンプから出てくる水の流れ(様子)をじっくり見ながら遊ぶ。
↳2色を交互に入れることで自然と混色に。

→ カサ袋に入れる時「角からじゃないと」こぼれちゃうよ」と角度を調整しながら入れる。

誰かの見たのかな
自らの経験？

→ 混色よりも水がこぼれていく様子を楽しんでいる？シャンプーボトルから色水を入れる→卵パックに流す→いっぱいになったら机上に流す。

→ ㊐が横にいなかったことで遊びがダイナミックになった？それとも興味が戸外でやるような水遊びに近いのか？次回、近くで見ることでどこに興味があるのか探る。

(J)(K)

卵パックに黄色と青を1列ずつ入れてスプーンで片方の色をすくって少しずつ混ぜたり、スプーンの底で色水をなでることでちょっとずつ混ざっていく様子を楽しむ。

(K)

できた色水を1つずつスプーンですくいR1ボトルに入れていく。

→ 色が溜まるとふたをしめて思いきり振る。

→ なんで振っているのか聞いてみると…「こうしたら色が色が混ざるから」

見た目ではすでに混ざっているけど、振ると完成に近付くと考える所に面白さを感じた。

大人に見える感覚と違う

㊐の感覚大切

(L)

R1ボトルに色水を直接入れてみたり、スポイトで少しずつ取って別の色と混ぜてみたり、本児なりに試している姿が多い。

→ R1ボトルに色水を入れると、かき混ぜるように振ってじっと見つめる。

→ 色をはっきりさせるために振る？振ることで入れてばかりの色から変化が見られると思っているのか…？

→ 「○色できた」と完成した色を言葉にする。違う色ができると嬉しそう。

→ (H)などの遊び方とは少し違う。使いたい色をカップに入れる→混ぜるうちに作りたい色のイメージが沸く？→入れる量を調整しているような遊びかた。

→ スポイト上部を押したら入れられることは分かっている。でも入れることに苦戦。

→ シャンプーボトルのここにスポイトを刺して、入れようとする。少し入ると笑顔に。

その子なりの工夫 → 喜び

(A)

赤と青と黄色を混ぜたらグレーになった」と㊐に伝え、その姿を見ていた(B)が入れた回数を(A)に聞く。その回数を真似ると同じ色が完成していた。
↳2人のやり取りを見て小さなジップロックに完成した色水を入れて、カラーチャートを作り始めてみた。(横には入れた回数を記載)

㊐が作ったカラーチャートを見て真似る姿や、同じ色水を使うけど(C)「赤っぽくしたいから赤入れる回数を増やそう」と違う回数にしながら混色を試す。

☆2色での混色をじっくり試す機会が多かったことで、(C)の「赤っぽくしたいから量を増やす」の考えに繋がっていたように感じる。

(D)

カラーチャートに気付く姿はなかったが、「同じ色を入れたのに完成した色が違う」ということに不思議そう。(E)「入れた量が違うんじゃない？」(D)「ちゃんと数えてなかったから次は数えてみよう」(E)の一言で入れる量によって変化することに気付いたのか…？

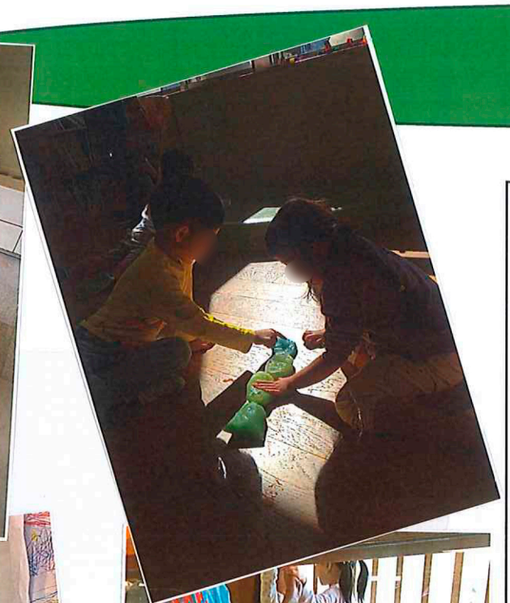
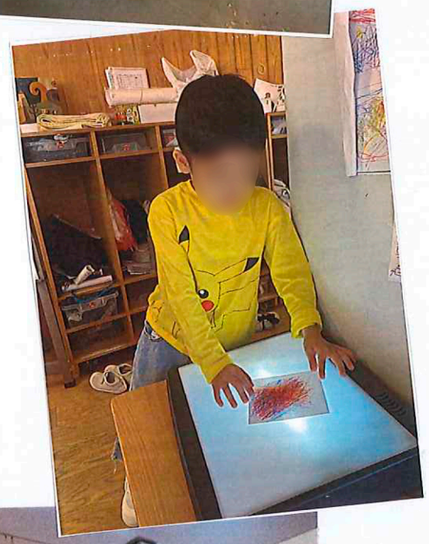
(F)

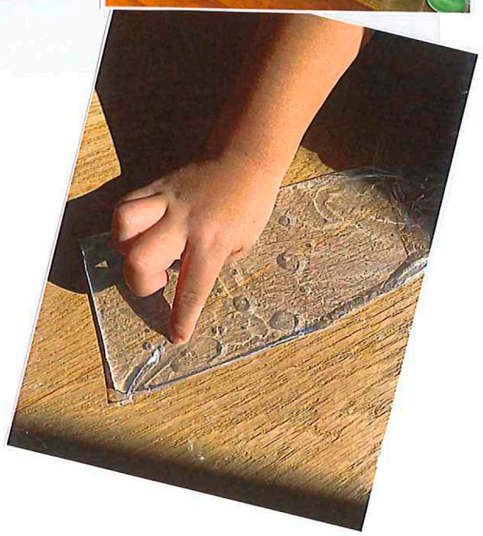
ペットボトルに赤と青を入れて紫を作ると、「青足したら下の方は青っぽい紫になるけど上は薄い紫になる。なんでだろう？」青や赤を足しながら変化があるか観察する。

1つのペットボトルに入れてるから同じ色になるというイメージが沸いている。だから同じ容器の中で変化がある様子が不思議に感じる。

追加で色を入れる時、意識していたかわからないが、入れる量スピードが違った。少しずつ入れるまたは一気に入れることで混ざり方も変わると思ったのか。

# 振り返り



テーマへの振り返り

「色水あそび」や「色づくり」は遊びの中で行っていたことだったので子どもの興味に合っていたと思う。色水を作るにあたり色の違いや容器に入れる工程を想像していたが、大人が思ってる以上に子どもたちは色々と発見しながら遊びを楽しんでいた。

（クレヨンでも混色しライトに当てる、布に染みこませる、気泡に気付くなど）

育てたい子どもの姿（年齢別保育目標に基づいたねらい）の振り返り

・自分でも「色が作れる」その子なりの成功が喜びや自信に繋がった。
・継続することで発見を友達や大人と共有し合い、他の子の気づきをキャッチする力がついてきたと思う。そのことで交友関係が広がった。
・経験を重ねる毎に道具の使い方が巧みになったり、大人が支援していた作業も自分たちで行うようになった。

保育士がすべきこと（ねらいを叶えるための環境・配慮点）の振り返り

・活動①では落ち着いて取り組めたらと思いアトリエで興味を持った子から始めた。興味を持つタイミングも終えるタイミングもそれぞれだったので、その後はアトリエの活動がわかりやすいように隣の広場の別の遊びと選択できるようにしてみた。
・できたものを飾ってみたが反応が薄いと感じた。なので並べ方をグラデーションに並び直してみると「わーきれい」と気が向き、友達と色についての会話が増えた。
・大人は様々な子どもの姿に気付き、面白さを感じることができた。見ている大人によっては気づきも違い、話を聞いて「そんな姿もあるんだ」「そういう意味があったんだ」と知ることができた。

・初期の段階から自分で「これは〇プッシュ」「これは〇プッシュ」と加減をわかっていた子がいたがその様子を他児に知らせられるよう形にできなかった。それができていれば遊び方が変わった子もいるかもしれないと思った。色水は共有のために室内に飾っていたが、そこにコメントがあったら・・声を視覚的に伝えられたら・・と思う。
・一方で興味が違う子にとっては、様々な道具や活動に興味を持ちその子なりの工夫で楽しむ姿をたくさん見つけられた。個への配慮と全体への配慮をどの視点に合わせるか、都度振り返り共有していけるようにしたい。